

住民自治のあり方についての
ヒアリング及びアンケート結果報告書

住民自治の
20 年の振り返りと
これからについて

令和 7 年 3 月
伊賀市地域連携部
住民自治推進課

目 次

住民自治のあり方についてのアンケート調査及びヒアリングの概要.....	2
組織の透明性.....	3
問 1 住民自治協議会の役割は地域住民に浸透していますか.....	3
問 2 総会資料や会計の書類、会議資料等を地域住民に公開していますか.....	3
問 3 地域の魅力や、イベント情報を他地域の人へ発信されていますか.....	4
人口減少や高齢化のなかでの地域の取り組み.....	4
問 4 新しい事業等を提案できる仕組みや雰囲気はありますか.....	4
問 5 担い手の確保として NPO や他団体と協働（連携）している事例はありますか.....	5
問 6 幅広い年代の人らが交流できる場はありますか.....	5
問 7 男女共同参画の取り組みとして自治協活動において女性の参画は進んでいますか.....	6
地域まちづくり計画の策定と地域への思い.....	6
問 8 地域まちづくり計画は地域住民で共有していますか.....	6
問 9 10 年先に向けてどのような自治協をめざすか話し合えていますか.....	7
問 10 10 年先に向けてどのような地域にしたいか話し合えていますか.....	7
財政支援について.....	8
問 11 地域包括交付金の主な使途上位 3 つを選んでください.....	8
問 12 地域包括交付金はどのような効果がありましたか.....	8
問 13 キラッと輝け！地域応援補助金はどのような効果がありましたか.....	10
問 14 地域絆づくり補助金はどのような効果がありましたか.....	11
地域の取り組み等について.....	12
問 15 地域の課題解決ができた事例を教えてください.....	12
問 16 地域の課題解決に向けて、今後、重点的に投資したい事業を教えてください.....	13
問 17 これまでの地域まちづくり計画を進めてきた成果で、自慢したいことを教えてください.....	14
問 18 後世に残したい地域の資源を教えてください.....	15
市の支援について.....	16
問 19 市の支援について市民が主役となるまちづくりの継続にどのような支援が必要ですか.....	16

住民自治のあり方についてのアンケート調査及びヒアリングの概要

(1) ヒアリング及びアンケート調査実施の目的

多くの住民自治協議会（以下、自治協）が設立から 20 年を迎える中、少子高齢化や定年延長等のライフスタイルの変化が地域の運営や活動に大きな影響を及ぼしており、役員のなり手不足や行事への参加者の減少等、地域住民同士のつながりの希薄化が顕著となっている。

こうした状況を踏まえ、持続可能な地域づくりを実現するには、住民自治のあり方の検討が必要であることから、その検討の参考とするため、全自治協に対しこれまでの振り返りと現状の課題、今後のあり方についてのアンケート調査およびヒアリングによる聞き取りを行った。

(2) 実施対象団体数 39 自治協

(3) アンケート実施時期 令和 6 年 12 月

(4) ヒアリング実施時期 令和 7 年 1～2 月

アンケート結果に基づき、回答内容の詳細等について全自治協にヒアリングを実施した。

(5) アンケートについて（全 19 問）

▷問 1～10 は、選択式により回答

- ・よくできている（とてもある）
- ・できている（ある）
- ・あまりできていない（あまりない）
- ・まったくできていない（まったくない）

▷問 11 は選択式により上位 3 つまで回答

▷問 12～19 は記述式

(6) 報告書の見方

▷円グラフはアンケートの回答結果を割合と各回答数を表示

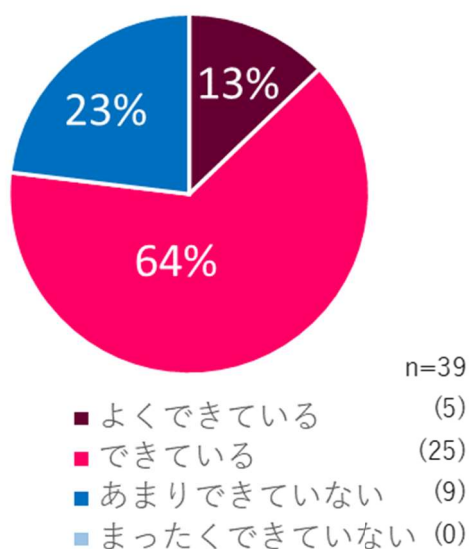
▷「ヒアリングでの主意見」は主だった意見を抜粋したもの

▷問 12 以降は回答及びヒアリングでの意見を内容により分類

組織の透明性

問1 住民自治協議会の役割は地域住民に浸透していますか

【アンケート結果】

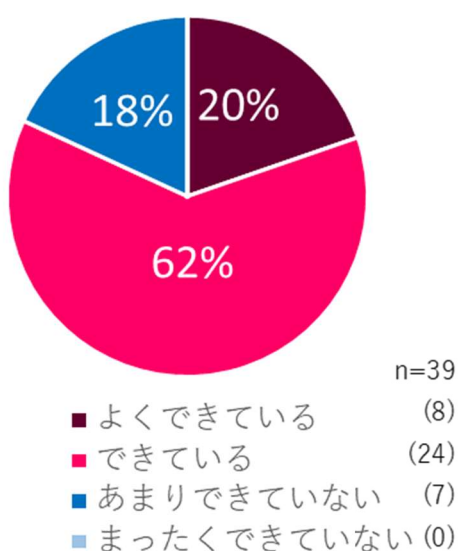


【ヒアリングでの主な意見】

- ・ 祭りや行事により一定浸透している。
- ・ 全ての住民が自治協の構成員であるということが浸透していない。
- ・ 自治会の意識が強く自治協の認知度が低い。
- ・ 役員は1～2年で代わることで多く、任期が終わると自治協とのつながりが切れることが多い。
- ・ 一部の人による狭いコミュニティになりつつある。

問2 総会資料や会計の書類、会議資料等を地域住民に公開していますか

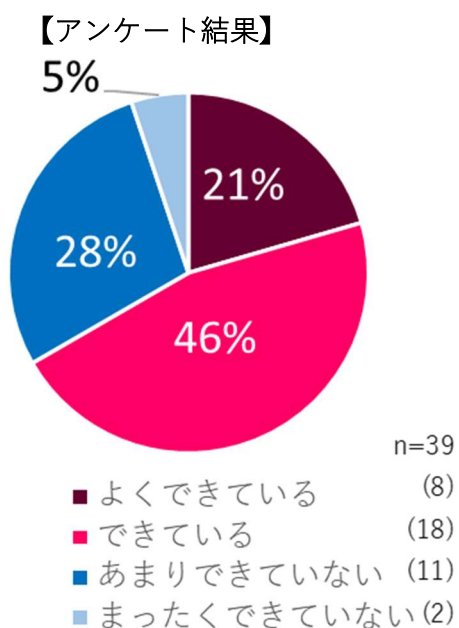
【アンケート結果】



【ヒアリングでの主な意見】

- ・ 自治協広報やホームページで公開している。
- ・ 回覧で全戸に公開している。
- ・ 全戸配布しているが、読んでいるかどうかは不明。

問3 地域の魅力や、イベント情報を他地域の人へ発信されていますか

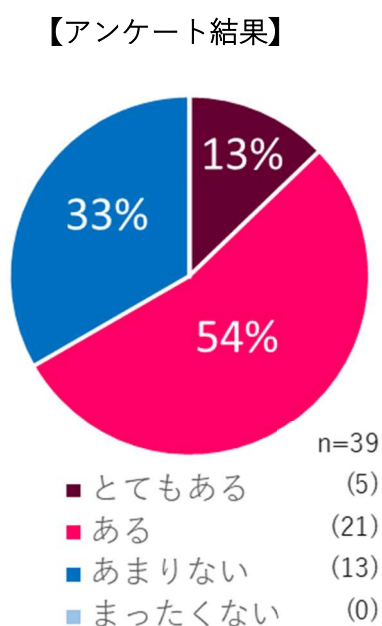


【ヒアリングでの主な意見】

- ・ 自治協広報やホームページ、SNS 等で発信している。
- ・ 発信を見て県外から訪れる人も多い。
- ・ 発信はしているが住民の関心は低く、参加者が固定化している。
- ・ 地域内向けの行事なので地域外へ発信する必要性は感じていない。
- ・ ホームページや SNS を立ち上げたので、今後積極的に取り組みたい。

人口減少や高齢化のなかでの地域の取り組み

問4 新しい事業等を提案できる仕組みや雰囲気はありますか

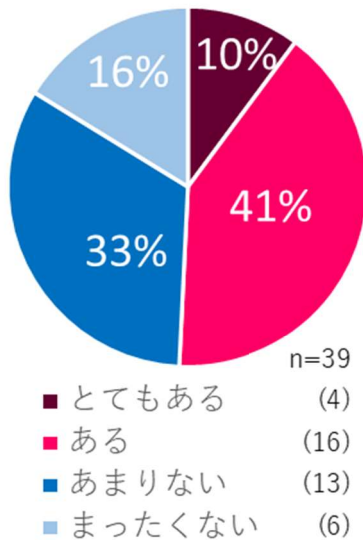


【ヒアリングでの主な意見】

- ・ 各部会で積極的に提案できている。
- ・ 住民の意見も聞きながら既存の事業を見直し、新たな事業を開催した。
- ・ 人口が減少し、参加者も減る中、地域行事の新しい事業展開が難しく、提案できない。
- ・ 提案しても人手不足で協力体制がなく実施に移せない。

問5 担い手の確保として NPO や他団体と協働（連携）している事例はありますか

【アンケート結果】

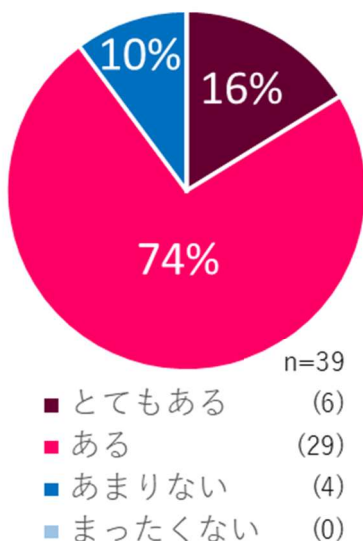


【ヒアリングでの主な意見】

- ・ 社会福祉協議会や消防団、営農組合、学校等と連携している。
- ・ 地元企業との連携にむけて検討を進めている。
- ・ 市内団体と防災に関する協定を結び、情報共有を図っている。
- ・ NPO と連携しマルシェを開催している。
- ・ 地域に連携できる団体がない、もしくは繋がるきっかけがない。

問6 幅広い年代の人らが交流できる場はありますか

【アンケート結果】

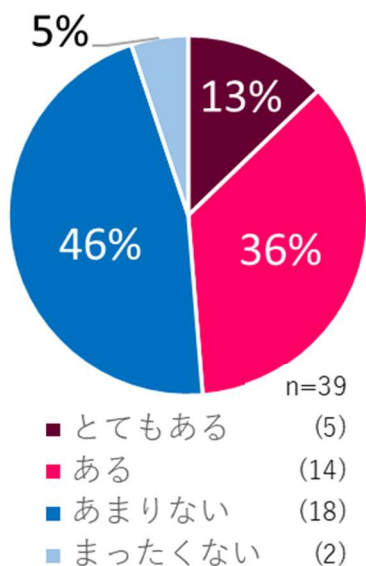


【ヒアリングでの主な意見】

- ・ 文化祭と夏祭りを統合することで効率化し、幅広い交流の場となっている。
- ・ 学校等と連携し交流する行事を実施。
- ・ 体育祭をやめるなど行事を統合したため、集まる機会が減ったが、担い手不足のため仕方がない。
- ・ イベントへの参加はあっても参画は難しい。
- ・ 参加者は高齢者が多く、世代間交流にならない。
- ・ 40～50 代は子育て等で休日に実施しても集まらない。

問7 男女共同参画の取組みとして自治協活動において女性の参画は進んでいますか

【アンケート結果】



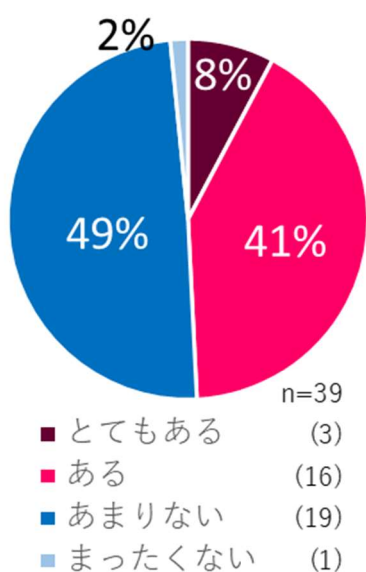
【ヒアリングでの主な意見】

- ・ 福祉部では女性のほうが多く、活躍している。
- ・ 役員に女性枠を設置し、役員の半数を女性に参画してもらえよう目指している。
- ・ 男女ともに役員は男性がすべきものという考えが根底にある。
- ・ 家庭状況等により参画が難しい。

地域まちづくり計画の策定と地域への思い

問8 地域まちづくり計画は地域住民で共有していますか

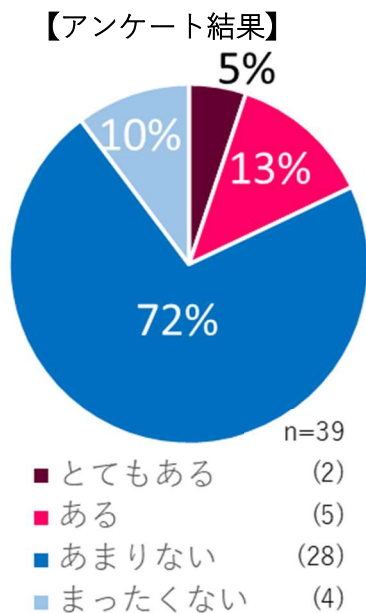
【アンケート結果】



【ヒアリングでの主な意見】

- ・ 自治協広報やホームページで公開している。
- ・ 防災に関することは自分ごとなので住民も興味を示してくれている。
- ・ 共有しているが、役員以外には浸透していない。地域住民にとっては帰属意識が薄く、理念共有は難しい。
- ・ 総会資料にまちづくり計画を含めているが、住民に共有されているように感じない。

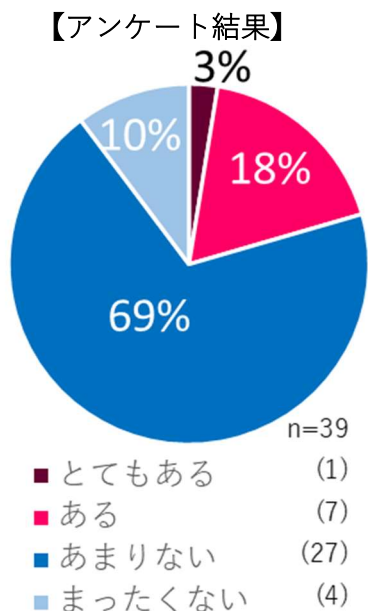
問9 10年先に向けてどのような自治協をめざすか話し合えていますか



【ヒアリングでの主な意見】

- ・ 住民にアンケートをとり検討中。
- ・ 10年先まで見通せない。
- ・ 目先の事業をどうするかで精一杯。
- ・ 考える場はあるが、役員任期が1～2年間であるため、長期的な検討が困難。
- ・ 各自治会の活動が中心であり、自治協のあり方までは検討できていない。

問10 10年先に向けてどのような地域にしたいか話し合えていますか



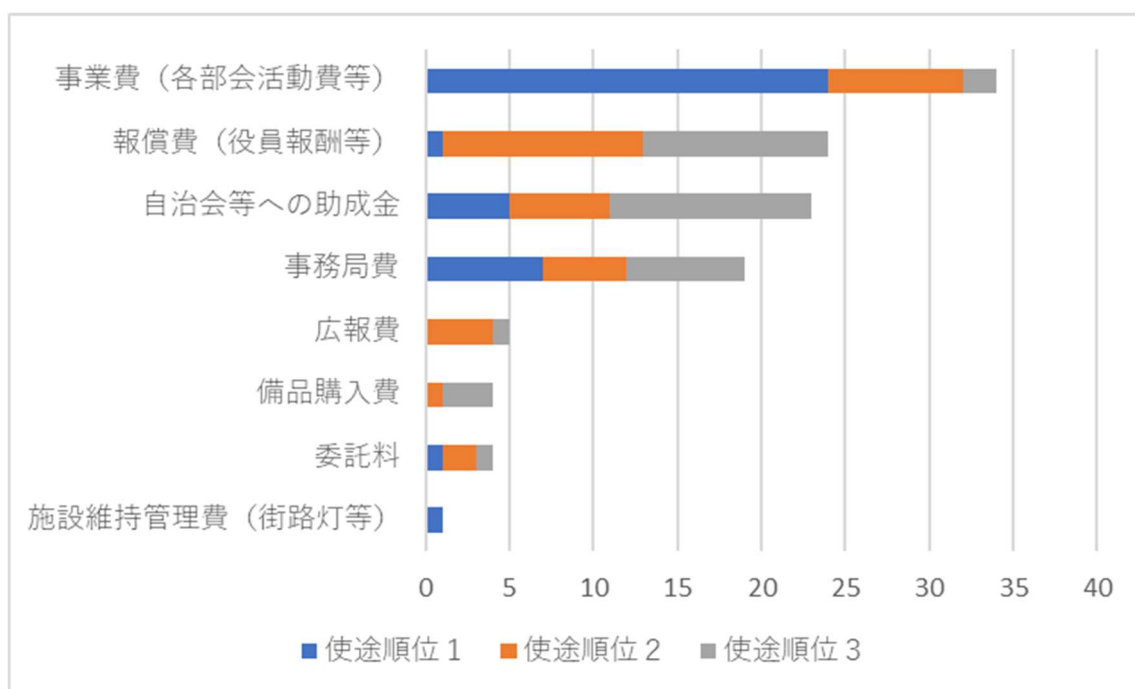
【ヒアリングでの主な意見】

- ・ 安全・安心、賑わい、防災、子育て、農地等、テーマを絞り、地域のあり方を話し合っている。
- ・ 部会によって温度差がある。
- ・ 若者も話し合いに参加できるようオンライン等での会議も検討しているが、高齢者が参加しづらく課題がある。

財政支援について

問 11 地域包括交付金の主な使途上位 3 つを選んでください

【アンケート結果】



※以降、記述式での回答

問 12 地域包括交付金はどのような効果がありましたか

【アンケート結果】

< 肯定的な意見 >

- ・ 自治協の事業実施や地域の課題解決に大きな効果があった。
- ・ 事業費に充てることで地域交流事業ができた。
- ・ 自治協運営に役立っている。
- ・ 交付金を必要経費に充て、自己資金を事業に回すことができた。
- ・ 積み立てにより備品購入などに活用できた。
- ・ 高齢者サークルや児童福祉会へ自治協から補助を行い、高齢者、児童の活発な活動に繋がった。

<その他の意見>

- ・ 市は事業を自治協に移行しつつ、包括交付金を減額しているので矛盾とを感じる。
- ・ 減額により事務局員の雇用ができない。
- ・ 減額により自治協の各種事業に充当できず自治会（区）への助成に終始しており、効果的に活用できない。
- ・ 工夫し事業を廃止せず効果を出しているが、役員報酬等をカットして対応しているため構成員の負担が増加している。
- ・ 交付金で行う業務は市との協定の必須業務にあたり、事業に活用できる実質的な財源は少ない。
- ・ 自治会（区）への助成と役員報酬で交付金の約7割を占めており、自治協として十分な活用はできていない。

【ヒアリングでの主な意見】

<肯定的な意見>

- ・ 地域住民が一堂に会することができる事業などを実施できた。
- ・ コロナ渦でも工夫し継続することで自治協が住民に浸透する効果があった。
- ・ まちづくり計画に基づいた事業の実施に効果があった。

<その他の意見>

- ・ 減額により各事業に充てる予算がない。
- ・ 減額により活動ができなくなった。報酬を減らし対応している。
- ・ 毎年しっかり事業を行っている自治協には、交付金増額のインセンティブがあってもいいのでは。
- ・ 人口が減っても必要なことは変わらないため交付額を維持してほしい。
- ・ 変動がなく安定した交付金が必要である。
- ・ もっと使途に自由度があるとありがたい。
- ・ 交付金算定の基礎として高齢化率を加味してほしい。人口割では減る一方である。
- ・ 提案型補助金（キラッと輝け！地域応援補助金等）の財源を交付金に上乗せしてほしい。

問 13 キラッと輝け！地域応援補助金はどのような効果がありましたか

【アンケート結果】

<肯定的な意見>

環境整備、地域食堂や子ども食堂の開設、多世代交流事業、高齢者の見守り、災害対策、防災訓練の実施、空き家対策、地域の魅力発信、文化継承事業、史跡誌や散策ガイドの発行、スポーツ大会の実施、子どもの見守り、防犯カメラ設置、獣害対策 など

<その他の意見>

- ・ 以前にこの補助金による事業を実施したが、あまり効果がでなかった為以後補助金申請は行っていない。
- ・ 事業費のうち2割の自己負担額が捻出できず実施できない。
- ・ 既存事業以外に新規事業を実施する部会員の時間的な余裕がない。

【ヒアリングでの主な意見】

<肯定的な意見>

- ・ 地域での見守り支援の場として活用できている。
- ・ 地域の魅力を発信して次世代の担い手育成に活用している。
- ・ 地域の文化の継承ができた。今後、文化財の保存や祭りを復活させたい。
- ・ 事業では多くの親子も参加しており効果があった。
- ・ 地域住民の防災意識向上、見守り強化に一定の効果があった。
- ・ 保育所、小学校がなくなり、若者と高齢者の接点がなくなってきた中、補助金を使い交流の場ができた。

<その他の意見>

- ・ 申請手続きが煩雑。
- ・ 地域課題は恒常的なものなので3年間という補助期間の制限は無くしてほしい。
- ・ 包括交付金に上乗せしてほしい。申請不要にしてほしい。
- ・ 包括交付金に上乗せするのは反対。活動が確約されていないにもかかわらず単に均等割を増やすのは公平性に欠けると思う。
- ・ 事業実施のための実行委員会や組織の立ち上げが負担である。

- ・ 対象経費に条件が多いため使いにくい。包括交付金に合わせた基準にしてほしい。
- ・ 補助期間終了後に自己負担で継続して実施できるかが課題。
- ・ 事業費のうち2割の自己負担額が捻出できず申請できない。
- ・ 地域内で事業を募集しても応募がない。
- ・ 役員が短期間で交代するため、前年度申請、次年度実施という補助金のスケジュール上、使いにくい。

問 14 地域絆づくり補助金はどのような効果がありましたか

【アンケート結果】

<肯定的な意見>

買い物バスの運行、祭りや行事の実施、自治協を超えた住民交流、地域間の問題発見、地域の魅力発信、広域での講演会や研修会の実施、自治協間の連携や結束力強化 など

<その他の意見>

- ・ 他自治協との協同事業は目的・目標を調整するのに時間が必要で申請に難あり。
- ・ 単独の自治協活動に追われる中、他自治協との協働が難しい。

【ヒアリングでの主な意見】

<肯定的な意見>

- ・ 村時代から取り組んでいる祭りを継続できる補助金であり、なくてはならない。
- ・ 自治協域を超え、学区を中心とした課題解決はできないか検討中。
- ・ 現在活用しており、今後さらに広域での事業を展開していきたい。

<その他の意見>

- ・ 自己負担額が捻出できない。
- ・ 役員が単年で変わる中どうしてもこれまでの事業の踏襲となり、他地域との連携まで検討できないし調整できない。
- ・ 合併前からの元々の繋がりがないと新規での連携は難しいのでは。

地域の取り組み等について

問 15 地域の課題解決ができた事例を教えてください

【アンケート結果】

<肯定的な意見>

- ・ コロナ禍後、行事・イベント等を再開することによって住民交流の場を維持。
- ・ 日常の困りごと相談や支援をする体制を構築し、高齢者や障がい者支援に寄与。
- ・ 配食サービス事業や、移動カフェによる高齢者支援。
- ・ 不法投棄監視パトロールによる環境維持。
- ・ 市との連携による空き家対策。
- ・ 地域誌発行による文化や歴史の継承。
- ・ コミュニティバスの運行による移動手段確保。
- ・ まちづくり計画の策定による今後 10 年間を見通した地域の方針決定。
- ・ 子どもから高齢者まで参加したワークショップの開催による、新しいまちづくり計画策定のための意見交換の実施。
- ・ 独居老人への訪問による、介護予防と高齢者見守り支援。
- ・ 防犯カメラの設置や青パトによる地域の安全の確保。
- ・ 防災訓練の実施による災害対策や防災意識の向上。
- ・ 地域食堂や子ども食堂の立ち上げによる住民交流の場の創出。

<その他の意見>

- ・ 課題解決に向けて活動しているが年々課題が増え続けているため解決できた事例はまだない。

【ヒアリングでの主な意見】

<肯定的な意見>

- ・ 健康教室、防災講演会、詐欺対策講座の開催。
- ・ 地域にある企業との連携強化。
- ・ 人口が減少し負担が増加する中、行事の規模を縮小することによって継続。
- ・ 学校との連携による地域行事への若者の参加。
- ・ 現在の行事等を無理して続けていくのではなく、最低限必要なことを楽しく負担なく続けたい。

- ・ 災害時に地域住民を守るための資料（家族の情報や緊急連絡先）を集約し、地域福祉コーディネーターとも連携し災害対策に取り組んでいる。
- ・ 全住民アンケートを実施することで課題を把握し解決に向け取り組んでいる。
- ・ 自治協と自治会の役割分担ができ、良いサイクルの中で環境整備が進んだ。

<その他の意見>

- ・ 旧村から引き継いだ事業が多く、継続していくことが目的となっていることから新たな課題解決には至っていない。

問 16 地域の課題解決に向けて、今後、重点的に投資したい事業を教えてください

【アンケート結果】

地域の魅力発信、移住促進、人口減少対策、住民交流の場の創出、買い物支援、移動支援、高齢化対策、農地整備、安全安心の確保、子育て支援、災害対策、生活支援事業、空き家対策、獣害対策、若者の意見を取り入れるための仕組みづくり、担い手育成、地域の人材発掘、まちづくり計画の見直し など

【ヒアリングでの主な意見】

<肯定的な意見>

- ・ 地域のボランティア団体との連携。
- ・ 生涯学習支援員を中心に地域の交流の場を計画したい。
- ・ 部会の横の連携。
- ・ 学校との連携強化。
- ・ 事業を実施してくれる人材。ボランティアだが、今後は報酬を払ってでも継続する必要があると感じている。

<その他の意見>

- ・ 財政的に余剰がないので新たに投資したいと考えられる事業はない。

問 17 これまでの地域まちづくり計画を進めてきた成果で、自慢したいことを教えてください

【アンケート結果】

<肯定的な意見>

- ・ 地域の祭りや行事による地域内外、世代を超えたの住民の交流。
- ・ 地域食堂や子ども食堂の継続による世代間交流。
- ・ 住民参加による環境美化活動。
- ・ 役員任期を複数年化したことによる運営体制の強化。
- ・ 地域誌の作成による地域への訪問者の増加。
- ・ 地域の企業との連携が図れていること。
- ・ 防災訓練実施による住民の防災危機意識の向上。
- ・ 買い物バスの運行による生活支援。

<その他の意見>

- ・ 自慢できることはない。

【ヒアリングでの主な意見】

<肯定的な意見>

- ・ 全住民に地域にアンケート調査をし、地域まちづくり計画を見直したこと。
- ・ 環境美化活動を継続することで住民の地域をきれいにしようという気持ちが醸成されていること。
- ・ 若者をメインとしたイベントの実施（イルミネーション、マルシェ等）。
- ・ 住民の提案からイベントを行っているため、参加率が高いこと。
- ・ 生活支援事業の支援メンバーが増えてきたこと。
- ・ 地域の課題を住民で共有し団結して取り組んでいること。

<その他の意見>

- ・ 地域おこし協力隊とともに発掘中である。
- ・ 自慢できるものがない。老人会の解散など地域力が下がっている。
- ・ 当然のことを当然にやっているだけなので自慢するものではない。

問 18 後世に残したい地域の資源を教えてください

【アンケート結果】

祭りや音頭、餅つきや花火大会等の行事、重要文化財、史跡、古墳、
自然、景観、地域産の農産物、地域の伝承、歴史、文化、地勢等の記録、
地域出身の偉人、地域の人材 など

【ヒアリングでの主な意見】

<肯定的な意見>

- ・ 子どもの見守り活動を継続しており、地域のために活動できる人材を大切にしたい。
- ・ 棚田の風景や保護してくれる人材。
- ・ ドローンを活用し重要文化財の魅力を発信するなど、地域として保存・継承を行えるようにしたい。
- ・ 若者の郷土愛を育むためにも、有名な歴史的史跡や功績のあった人を後世に伝えていきたい。
- ・ 公園の自然など住みやすい周辺住環境。

<その他の意見>

- ・ 残したい資源はあるが担い手が不足。地域だけで守っていくには限界がある。
- ・ 重要文化財等が多く残っているが数軒の個人で守っている。
- ・ 今後は地域貢献している人材への支援が重要と考える。
- ・ 祭りを残したいが年々規模縮小している。

市の支援について

問 19 市の支援について市民が主役となるまちづくりの継続にどのような支援が必要ですか

【アンケート結果】

< 人的支援 >

- ・ アイデアの提供や当該地区の市職員の協力や支援、相談しやすい体制。
- ・ 地域要望に対して素早い対応、返答。
- ・ 市職員の自治協の会議や行事などへの参画。
- ・ 専門的なアドバイザーやコーディネーターによる助言、派遣。
- ・ 既存の税務、労務の専門家による相談会の継続。

< 事業支援 >

福祉支援、子どもの居場所づくり、買い物支援、公共交通、人口流出対策、農地保全、環境保全、インフラ整備、僻地への支援 など

< 財政支援 >

- ・ 包括交付金や各補助金の増額や見直し。

< その他 >

- ・ 指定管理において市民センターの有効活用を図るための各種制限の撤廃（センター条例の改正）。
- ・ 自治基本条例の住民への周知。

【ヒアリングでの主な意見】

- ・ 財政支援、人的支援どちらも必要。
- ・ 市職員の自治協への定期訪問。信頼関係の構築。
- ・ 他の自治協（市民センター）事務局長、センター長のつながりのための情報交換、意見交換会の開催。
- ・ 地区市民センターの移転（自治協エリアの中心へ）、設備拡充